

# Aiii

パラオ語で「こんにちは」  
Aiii (アリー)

# 2015. 9

みなさんアリー！

今回は、パラオのゴミのリサイクルシステムについて紹介します。

## リサイクルシステム

パラオでは、人々が出したゴミは、基本的に埋め立てられています。昔は、ごみといっても、食べ残したのものや、物を包むときは葉っぱなどを利用してため、埋め立ても、自然に土に戻るものがほとんどでした。

しかし、近年は、プラスチック容器やペットボトル、空き缶、空き瓶などの土に埋めても土に戻らないものが増えてきています。そこで、パラオでも、リサイクルを行っています。

### ～ゴミのゆくえ～

#### ◆リサイクルをしている主なゴミ◆

- 空き缶→台湾へ輸出
- ペットボトル→台湾へ輸出
- 空き瓶→ガラス工芸
- 生ごみ→肥料
- 一部のプラスチック→油に変えて、発電



生ごみを肥料にしているところ。



空き缶をつぶしてブロックにしたもの。

#### 3R HERO

(スリーアールヒーロー)  
パラオのリサイクルのイメージキャラクター



## パラオクイズ！！

**Q** パラオの国では、空き缶、空き瓶、ペットボトルのゴミはほとんど落ちていません。それはなぜでしょう？

正解は

空き瓶、空き缶、テトラパック（ビニールのパックに入った飲み物の入れ物）、ペットボトルは、ひとつ5¢（5円くらい）でリサイクルセンターが買い取っています。そのため、パラオの人々は、空き缶などが落ちていたらそれを拾い、リサイクルするため、パラオの国には、こういったゴミはほとんど落ちていません。一石二鳥、いや、三鳥です！（ゴミを拾うことで、街がきれいになる●お金になる●リサイクルできる！）



## ■ 廃ガラスを利用したガラス工芸 ■



以前は、空き瓶を、空き缶のように他国へ輸出しても採算が合わないため、砕いた空き瓶をアスファルトに混ぜて利用する方法しかありませんでした。しかし、今年から、北原さん（JICA ボランティアとしてリサイクルセンターに携わっている）の発案で、廃ガラスを利用したガラス工芸作りの取組が始まりました。



ガラスを使用したアスファルト

### きたはら 北原さんにインタビュー



Q ガラス工芸教室を始めるにあたり、苦労したことはどんなことですか？

今までパラオになかったガラス工芸を、たくさんのパラオ人に広めることが大変でした。新聞に公告を出したり、テレビでCM（コマーシャル）をながしたりして、今では、多くのパラオ人にガラス工芸教室に参加してもらえるようになりました。これからも、ガラス工芸を通してのリサイクルすることの大切さをパラオの人々に知ってもらいたいです。

## ■ ガラス作りに挑戦 ■

私もさっそく、ガラス工芸に挑戦してみました。

使う瓶の色によって作られるガラスの色が決まるそうです。茶色や青色などの濃い色の瓶は、ガラスをふくらませるときに、どれだけ空気が中に入ったのか見えにくいので、作るのが難しいそうです。

初心者の私は、透明の瓶を使ってガラス作りをしました。

このガラス工房では、週に数回、パラオに住む人々向けに、ガラス作り体験教室を開催し、ガラス作りの楽しさを伝えると共に、リサイクルの大切さも伝えていきます。



透明や緑、青色など、いろいろな色の瓶で作られたガラス作品。



リサイクルセンターのすぐ横にあるガラス工房。